

週刊 武四郎

第3号

2018年(平成30年)4月25日(水)
発行・松阪市

●毎月第四週は、
松浦武四郎のコレクション
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

古銭趣味

松浦武四郎という人は、今でこそ「北海道の名付け親」というような肩書き(?)で呼ばれています。このキャッチフレーズが生まれたのは明治も四十年代に入ってからなのだそう。ちゃんと北海道博物館の方が調査なさっているんですよ。

では、開拓使を辞めたあとの武四郎さんは、世の中の人たちから「何をしている人」と思われていたのでしょうか？

当時の新聞記事を見ると、武四郎さんが生きている間……たとえば北野天満宮に大きな神鏡を奉納した時の記事などには、『古銭蒐集家松浦武四郎翁』というように表記になっています。

……古銭蒐集家！(しかも当時武四郎さんはまだ六十代半ば

なんです。すでに翁です。昔の人は早く大人になって、早くから老人と呼ばれたんですね)

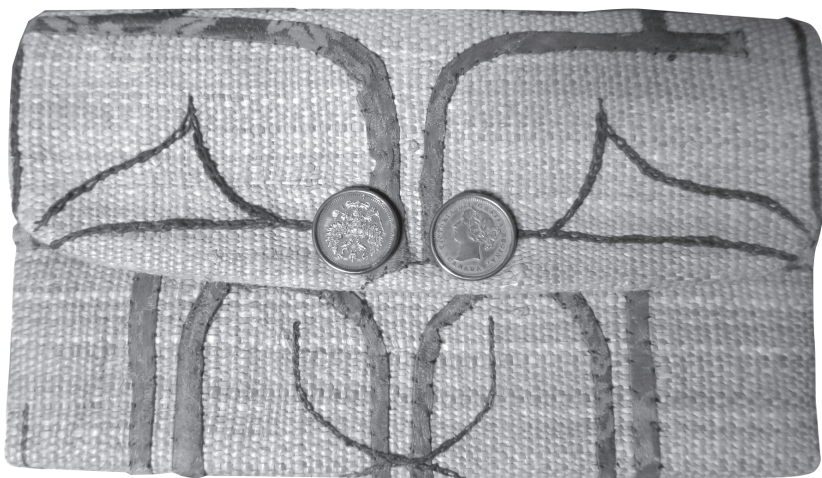
でも、この肩書きは確かに松浦武四郎という人の一面をよくあらわしています。時に天保三年八月、射和延命寺の物産会(好事家が秘蔵の逸品を持ち寄って見せあう会)の目録に次のような記録が残っています。

『紅毛銭二種 津松浦武四郎』

大人たちに交じって、この時わずか十五歳の武四郎少年も、どこで手に入れたのか紅毛銭(おそらくオランダの硬貨)をしかも二種類も持参したのでした。なんともひねこびた子供です。以来、武四郎さんは古銭蒐集と研究を生涯続けたようです。現在、静嘉堂文庫に納められている遺品の中には遙か昔ローマ時代のアントニアヌス

貨(紀元二八〇年頃のもの!)がありますし、武四郎記念館に保存されているアイヌの模様の紙入れ(財布のようなもの)の留め具は、ビクトリア女王の顔が刻印されたコインが二枚、表と裏にして覆輪留めになっています。これはカナダの硬貨だぞ

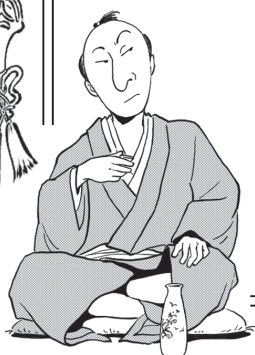
うです。武四郎さん、晩年に愛用していたものでしょうか。当時の日用品からは持ち主の趣味嗜好がよくわかるものですが、この紙入れもなかなか凝っていて、いかにも蝦夷通で古銭蒐集家として知られていたへ武四郎好みという感じがします。



▲武四郎の遺品の紙入れ 松浦武四郎記念館蔵

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

